

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3155331号
(U3155331)

(45) 発行日 平成21年11月12日 (2009.11.12)

(24) 登録日 平成21年10月21日 (2009.10.21)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 F 5/02 (2006.01)

A 6 1 F 5/02 K

A 6 1 F 7/08 (2006.01)

A 6 1 F 7/08 3 6 1 N

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2009-6236 (U2009-6236)

(22) 出願日 平成21年9月1日 (2009.9.1)

(73) 実用新案権者 592145028

中山式産業株式会社

東京都荒川区南千住6丁目5番10号

(74) 代理人 100074192

弁理士 江藤 剛

(74) 代理人 100121496

弁理士 中島 重雄

(72) 考案者 中山 資紀

東京都荒川区南千住6丁目5番10号

中山式産業株式会社

内

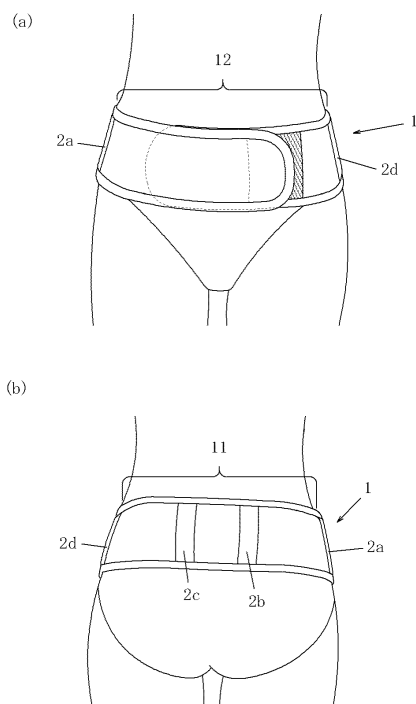
(54) 【考案の名称】 伸縮ベルト

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】使用者の腰椎のサポートに十分であり、さらには遠赤外線発生部材が脱落や欠損等するおそれが少ない、伸縮ベルトを提供する。

【解決手段】伸縮ベルトは、伸縮して腰部や腹部等に巻き付けられる伸縮ベルトであって、第1の伸縮度を有する中央ベルト部と、中央ベルト部の両側に設けられ、第1の伸縮度より伸縮度が大きい第2の伸縮度を有する両側ベルト部12と、を有し、中央ベルト部、および中央ベルト部と両側ベルト部12と境界には、その短手方向に延び、使用者の腰椎を左右からサポートする複数の補強骨部2a、2dが取り付けられているので、腰部にかかる負担を軽減させるとともに、背筋の補助にも役立つ等、使用者の腰椎を十分にサポートすることができる。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

伸縮して腰部や腹部等に巻き付けられる伸縮ベルトであって、
第 1 の伸縮度を有する中央ベルト部と、
前記中央ベルト部の両側に設けられ、前記第 1 の伸縮度より伸縮度が大きい第 2 の伸縮度を有する両側ベルト部と、を有し、
前記中央ベルト部のほぼ中央、および前記中央ベルト部と両側ベルト部との境界には、その短手方向に延び、使用者の腰椎をサポートする複数の補強骨部が取り付けられている、伸縮ベルト。

【請求項 2】

請求項 1 記載の伸縮ベルトにおいて、
前記中央ベルト部には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材が設けられている一方、
前記両側ベルト部には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材が設けられていない、伸縮ベルト。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、骨盤ベルトや腹巻（コルセット）等として腰部や腹部に巻かれる伸縮ベルトに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

骨盤ベルトや腹巻（コルセット）等として腰部や腹部に巻かれる伸縮ベルトとして、例えば、着用者の腰部の周りに取り付けられるベルトの中央部内面に、遠赤外線発生部材が取り付けられた腰部サポーターがある（例えば、特許文献 1 参照。）。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2008 - 194150 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

しかし、上記伸縮ベルトでは、ソフトに構成されているため、腰椎のサポートには、不十分である、という課題があった。

【0005】

また、遠赤外線発生部材を伸縮し易いベルトの中央部内面に単に取り付けたのでは、ベルトの伸縮により、遠赤外線発生部材が脱落や欠損等するおそれがある、という課題もあった。

【0006】

そこで、本考案は、使用者の腰椎のサポートに十分であり、さらには遠赤外線発生部材が脱落や欠損等するおそれが少ない、伸縮ベルトを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

上記課題を解決するため、本考案の伸縮ベルトは、伸縮して腰部や腹部等に巻き付けられる伸縮ベルトであって、第 1 の伸縮度を有する中央ベルト部と、前記中央ベルト部の両側に設けられ、前記第 1 の伸縮度より伸縮度が大きい第 2 の伸縮度を有する両側ベルト部と、を有し、前記中央ベルト部のほぼ中央、および前記中央ベルト部と両側ベルト部との境界には、その短手方向に延び、使用者の腰椎をサポートする複数の補強骨部が取り付けられている、伸縮ベルトである。

ここで、前記中央ベルト部には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材が設けられている一方、前記両側ベルト部には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材が設けられてい

10

20

30

40

50

い、伸縮ベルトにするのが望ましい。

【考案の効果】

【0008】

本考案の伸縮ベルトは、伸縮して腰部や腹部等に巻き付けられる伸縮ベルトであって、第1の伸縮度を有する中央ベルト部と、前記中央ベルト部の両側に設けられ、前記第1の伸縮度より伸縮度が大きい第2の伸縮度を有する両側ベルト部と、を有し、前記中央ベルト部のほぼ中央、および前記中央ベルト部と両側ベルト部との境界には、その短手方向に延び、使用者の腰椎をサポートする複数の補強骨部が取り付けられているので、使用者の腰椎を十分にサポートすることができる。

特に、前記中央ベルト部には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材が設けられている一方、前記両側ベルト部には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材が設けられていないので、遠赤外線発生部材が脱落や欠損等するおそれを少なくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの使用態様の一例を示す全体図である。

【図2】本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの内側を示す全体図である。

【図3】本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの表側を示す全体図である。

【図4】本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの内側の両側ベルト部の一部を拡大して示す拡大図である。

【図5】本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの内側の中央ベルト部の一部を拡大して示す拡大図である。

【図6】本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの中央ベルト部の断面を拡大して示す断面拡大図である。

【考案を実施するための形態】

【0010】

以下、本考案の実施の形態1の伸縮ベルトについて説明する。

【0011】

実施の形態1 .

図1は、本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの使用態様の一例を示す全体図、図2は、本考案の実施の形態1の伸縮ベルト1の内側を示す全体図、図3は、本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの表側を示す全体図、本考案の実施の形態1の伸縮ベルトの内側の両側ベルト部の一部を拡大して示す拡大図、図5は、実施の形態1の伸縮ベルトの内側の中央ベルト部の一部を拡大して示す拡大図、図6は、実施の形態1の伸縮ベルトの中央ベルト部の断面を拡大して示す断面拡大図である。

【0012】

図1に示すように、実施の形態1の伸縮ベルト1は、伸縮して使用者の腰部や腹部等に巻き付けられるもので、短手方向の幅が約10cmである一方、長手方向はおよそ腰部全体をカバーする長さである。このため、腹の邪魔にならず、着脱も簡単である。なお、図1(a)は、実施の形態1の伸縮ベルト1を巻いた時の腹側を示しており、伸縮ベルト1の後述する両側ベルト部12が見えている。また、図1(b)は、実施の形態1の伸縮ベルト1を巻いた時の腰側を示しており、伸縮ベルト1の後述する中央ベルト部11が見えている。なお、図上、2a~2dは、後述する補強骨部である。

【0013】

そして、図2および図3に示すように、実施の形態1の伸縮ベルト1は、伸縮度の小さい第1の伸縮度を有する中央ベルト部11と、第1の伸縮度より伸縮度が大きく伸縮し易い第2の伸縮度を有し、中央ベルト部11の両側に設けられた両側ベルト部12とを有する。

【0014】

両側ベルト部12には、図2および図3に示すように、それぞれの両端部に、伸縮して使用者の腰部や腹部等に巻き付けられた際に、それぞれの両端部を留めるためのマジック

テープ（登録商標）部 1 2 a , 1 2 b が設けられている。

【 0 0 1 5 】

ここで、中央ベルト部 1 1 および両側ベルト部 1 2 は、図 4 に示すように、強固な縦糸を並べた長手方向（横方向）への伸縮性および通気性に優れた第 1 のメッシュ生地 1 3 に、1 . 5 mm 程度の間隔を空けながら約 6 mm 程の細幅の伸縮ゴム 1 4 が短手方向（縦方向）に並列に 1 3 本並べて連結し、伸縮ベルト 1 全体の短手方向の幅を約 1 0 c m にしている。これにより、伸縮ベルト 1 全体が、とても伸縮性および通気性に優れている。

【 0 0 1 6 】

その一方、中央ベルト部 1 1 は、例えば、図 5 に示すように、第 1 のメッシュ生地 1 3 を構成する強固な縦糸より柔らかで肌触りの良い糸により目が粗く編み込まれ、かつ、第 1 のメッシュ生地 1 3 および伸縮ゴム 1 4 より長手方向（横方向）の伸縮度が小さい第 2 のメッシュ生地 1 5 が設けられている。

10

【 0 0 1 7 】

そして、中央ベルト部 1 1 の第 2 のメッシュ生地 1 5 上には、直径 4 mm 程の小円状の遠赤外線発生部材 1 7 が複数貼り付けられている。これにより、遠赤外線が腰の裏側および横方向から均等に届くことになる。

【 0 0 1 8 】

このため、中央ベルト部 1 1 は、第 1 のメッシュ生地 1 3 により並列に並べられた伸縮ゴム 1 4 と、遠赤外線発生部材 1 7 が複数貼り付けられた第 2 のメッシュ生地 1 5 とにより、伸縮度の小さい第 1 の伸縮度を有することになる一方、両側ベルト部 1 2 は、第 1 のメッシュ生地 1 3 により並列に並べられた伸縮ゴム 1 4 のみで、第 2 のメッシュ生地 1 5 がないので、第 1 の伸縮度より伸縮度が大きく伸縮し易い第 2 の伸縮度を有することになる。

20

【 0 0 1 9 】

これにより、伸縮ベルト 1 を使用すると、使用者の腰側に来る中央ベルト部 1 1 は、第 1 の伸縮度により長手方向（横方向）には両側ベルト部 1 2 より伸縮しない一方、使用者の腹側には来る両側ベルト部 1 2 は、第 2 の伸縮度により長手方向（横方向）に中央ベルト部 1 1 より伸縮することになる。

【 0 0 2 0 】

なお、中央ベルト部 1 1 および両側ベルト部 1 2 とともに、短手方向（縦方向）には、ほとんど伸びないように、第 1 のメッシュ生地 1 3 や、第 2 のメッシュ生地 1 5 が構成されている。

30

【 0 0 2 1 】

また、遠赤外線発生部材 1 7 は、両側ベルト部 1 2 に設けられていない。これは、両側ベルト部 1 2 は、中央ベルト部 1 1 の第 1 伸縮度より伸縮度が大きい、すなわち良く伸縮する第 2 の伸縮度を有するので、伸縮ベルト 1 の着脱により伸縮を繰り返すうちに遠赤外線発生部材 1 7 が脱落する可能性が高いからである。

【 0 0 2 2 】

そして、本実施の形態 1 では、中央ベルト部 1 1 には、両側の両側ベルト部 1 2 との境界（接続）部分と、中央の 2 か所に、図上垂直方向であるその短手方向に延びるプラスチック製の硬質樹脂製の複数（本実施の形態では、例えば 4 本）のサポート片（ハードボーン）2 1 a ~ 2 1 d を第 1 のメッシュ生地 1 3 および第 2 のメッシュ生地 1 5 より厚手でほぼ伸縮性のない厚手生地 2 2 a ~ 2 2 d により被覆した補強骨部 2 a ~ 2 d を、第 1 のメッシュ生地 1 3 と、伸縮ゴム 1 4 と、第 2 のメッシュ生地 1 5 に縫い付けて取り付けられている。もちろん、補強骨部 2 a ~ 2 d の数は、一例であり、3 本以下でも、5 本以上でも勿論よい。

40

【 0 0 2 3 】

また、その複数の補強骨部 2 a ~ 2 d の裏側、つまり使用者が巻いた時に体に当たる内側には、厚手生地 2 2 a ~ 2 2 d 上にゴム等の滑り止め部 2 3 a ~ 2 3 d が取り付けられている。

50

【 0 0 2 4 】

これにより、伸縮ベルト 1 を使用者の腰等に巻いて体を動かしても、伸縮ベルト 1 がずれることを効果的に防止することができる。

【 0 0 2 5 】

また、図 1 に示すように、伸縮ベルト 1 を使用者の腰等に巻くと、この 4 本の補強骨部 2 a ~ 2 d のうち、両端の補強骨部 2 1 a , 2 1 d は、ちょうど使用者の両側の腰の位置に来る一方、中央の補強骨部 2 1 b , 2 1 c は、ちょうど腰椎を両側から挟む位置にくる。

【 0 0 2 6 】

これにより、この 4 本の補強骨部 2 a ~ 2 d が、使用者の腰椎を左右からサポートするので、腰部にかかる負担を軽減させるとともに、背筋の補助にも役立つ。

10

【 0 0 2 7 】

特に、図 6 に示すように、補強骨部 2 a ~ 2 d の中に挿入されるプラスチック製などの硬質樹脂製のサポート片（ハードボーン）2 1 a ~ 2 1 d は、伸縮ベルト 1 の表側、すなわち体に密着しない側に設けられているので、伸縮ベルト 1 が使用者の腰等に巻かれた場合でも、サポート片（ハードボーン）2 1 a ~ 2 1 d は、第 1 のメッシュ生地 1 3 や伸縮ゴム 1 4、厚手生地 2 2 a ~ 2 2 d、滑り止め部 2 3 a ~ 2 3 d を介して腰等に当たることになり、腰椎等をソフトにサポートすることができる。

【 0 0 2 8 】

また、両端の補強骨部 2 1 a , 2 1 d は、中央ベルト部 1 1 と両側ベルト部 1 2 との境界部分、すなわち第 1 のメッシュ生地 1 3 および伸縮ゴム 1 4 に対する第 2 のメッシュ生地 1 5 の接続部分に縫い付けられているので、赤外線発生部材 1 7 が多数貼り付けられている第 2 のメッシュ生地 1 5 が第 1 のメッシュ生地 1 3 および伸縮ゴム 1 4 から脱落することを防止することができる。

20

【 0 0 2 9 】

従って、本実施の形態 1 の伸縮ベルト 1 は、第 1 の伸縮度を有する中央ベルト部 1 1 と、中央ベルト部 1 1 の両側に設けられ、第 1 の伸縮度より伸縮度が大きい第 2 の伸縮度を有する両側ベルト部 1 2 と、を有し、中央ベルト部 1 1、および中央ベルト部 1 1 と両側ベルト部 1 2 と境界には、その短手方向に延び、使用者の腰椎を左右からサポートする複数の補強骨部 2 a ~ 2 d が取り付けられているので、腰部にかかる負担を軽減させるとともに、背筋の補助にも役立つ等、使用者の腰椎を十分にサポートすることができる。その結果、本実施の形態 1 の伸縮ベルトは、細身のコルセットや骨盤ベルトなどとして様々な使い方が可能である。

30

【 0 0 3 0 】

特に、本実施の形態 1 の伸縮ベルト 1 は、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材 1 7 が伸びの少ない中央ベルト部 1 1 に設けられている一方、伸びが大きい両側ベルト部 1 2 には、遠赤外線を発生する遠赤外線発生部材 1 7 が設けられていないので、遠赤外線発生部材 1 7 が脱落や欠損等するおそれを少なくすることができる。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 1 】

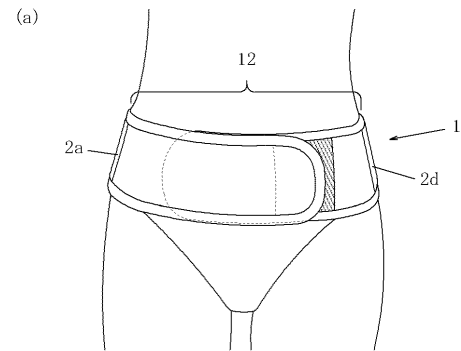
40

- 1 伸縮ベルト
- 1 1 中央ベルト部
- 1 2 両側ベルト部
- 1 3 第 1 のメッシュ生地
- 1 4 伸縮ゴム
- 1 5 第 2 のメッシュ生地
- 1 7 遠赤外線発生部材
- 2 a ~ 2 d 補強骨部
- 2 1 a ~ 2 1 d サポート片（ハードボーン）
- 2 2 a ~ 2 2 d 厚手生地

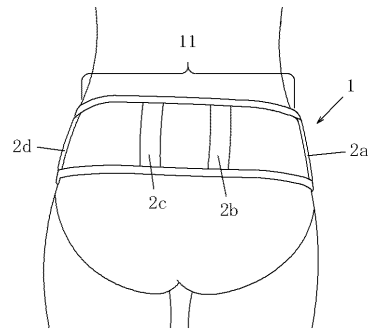
50

2 3 a ~ 2 3 d 滑り止め部

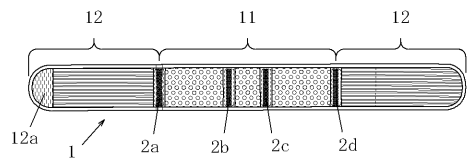
【図 1】



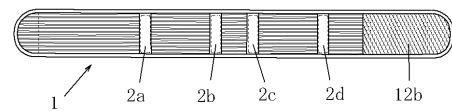
(b)



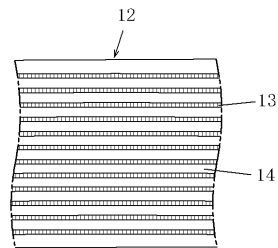
【図 2】



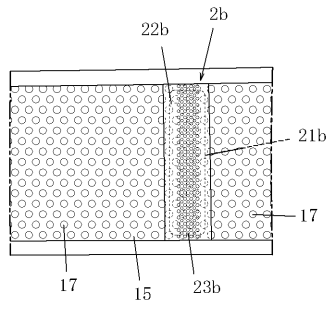
【図 3】



【図 4】



【 図 5 】



【 図 6 】

